「令和６年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 根木名小学校】

令和６年４月１８日（木）に、小学校第６学年全児童、中学校第３学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

１　児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

（１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm

２　本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算　数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

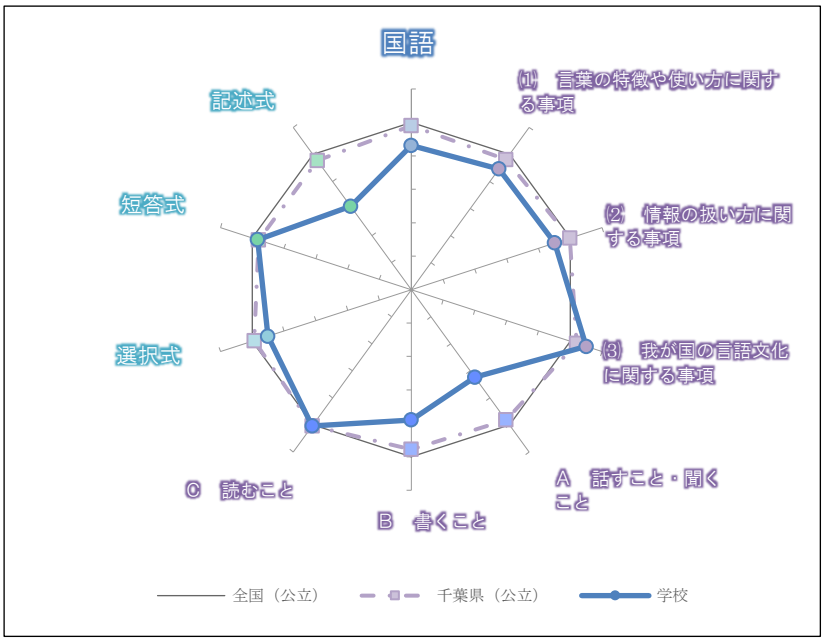
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○全体的に、全国と比較して正答率が下回りました。

○「話すこと・聞くこと」の領域において、正答率が特に低くなりました。「読むこと」では、正答率が全国平均と並びましたが、文章よりも図や表を読み取る力が低い傾向があります。特に、理由や根拠を問われる設問に誤答が多く見られました。

○「記述式」の問題形式において、正答率が大きく下回りました。求められている解答形式に合わせて答えることができなかったり、解答形式に合わせて答えられず無答になったりする傾向がありました。設問の意図を正確に読み取り、形式に応じた答え方をすることに関して課題が見られました。

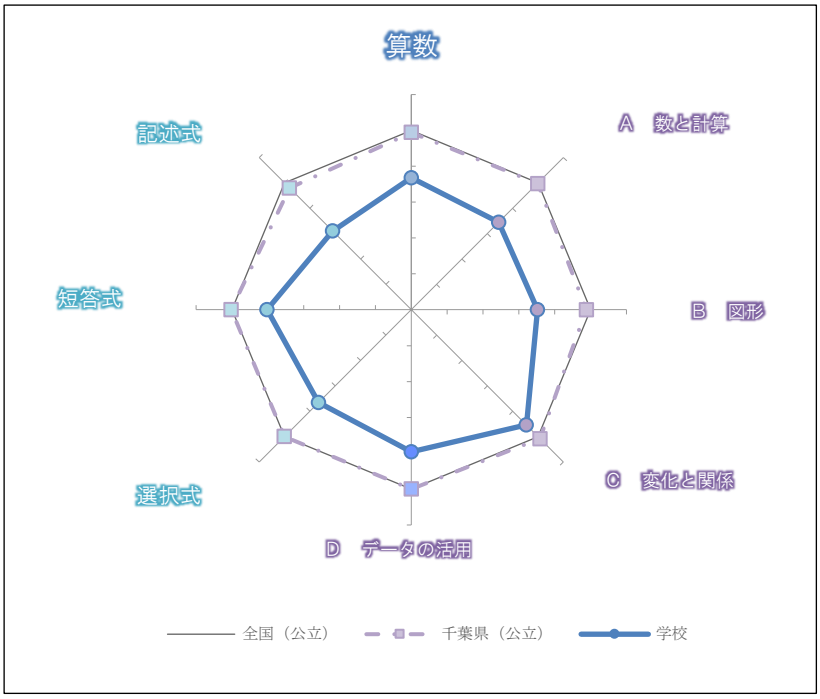
【改善方策等】

○全国平均に比べ、「話すこと・聞くこと」に関する事項において１０．６ポイント、「書くこと」に関する事項において７．５ポイント低いことから、全国平均との差５ポイント以内を目指します。

○問題形式では、「記述式」の問題形式において、１２．４ポイント低いことから、全国平均との差５ポイント以内を目指します。設問の意図を正確に理解し、形式に応じた答え方をするためには、言語活動を通して言葉を正確に理解し、適切に表現する力の向上を図る必要があります。

○学校生活では、集会等による音読発表の場などの言語活動の充実を図るとともに、学習ボランティアや図書館司書の有効活用により児童が多くの本や言葉に触れることができる環境を整えていきます。

算　数



【特徴と現状】

○全体的に、全国と比較して正答率が下回りました。

○「数と計算」の領域において、正答率が下回りました。計算の基礎となる前の学年までの計算に課題が残っていることにより、全体的に低い傾向となりました。

○どの問題形式においても正答率が全国平均を下回りました。特に、円グラフや折れ線グラフの正答率が低い傾向があります。図や表のような非言語情報の読み取りに関するスキルに課題が認められました。

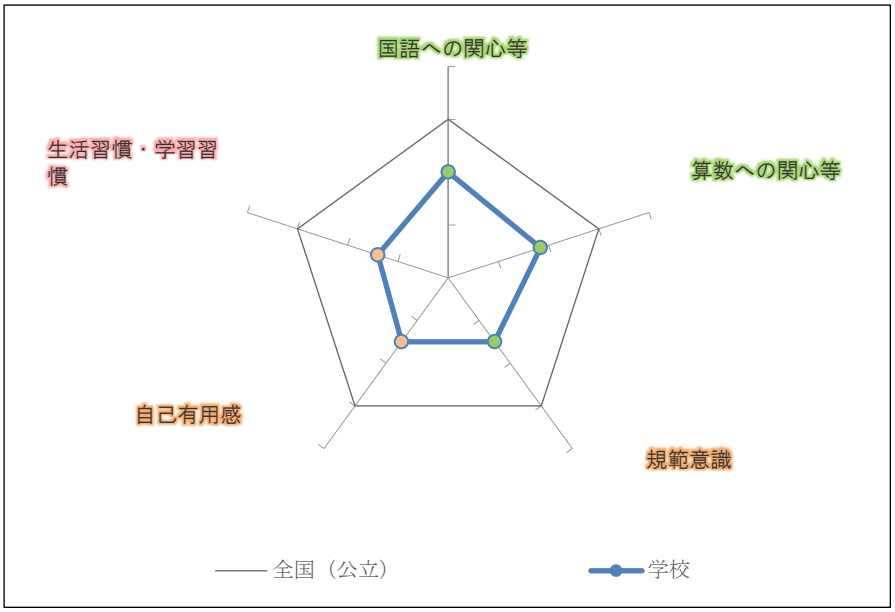
【改善方策等】

○式を立てた後に答えまで求めることができるよう、四則計算や公式などの基礎基本の定着を一層図っていきます。

○図や表から、変化の傾向や関連を読み取ったりする力を向上させていくためには、算数科の授業時間だけでは、十分時間が確保しづらいため、他教科においても、図や表を読み取る力の向上に一層取り組んでまいります。

○全国平均に比べ、「数と計算」に関する事項において１１．２ポイント、「図形」に関する事項において９．８ポイント低いため、全国平均との差５ポイント以内を目指します。

（３）児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

〇回答項目の全体で全国平均を下回りました。特に、「生活習慣・学習習慣」「自己有用感」が低い傾向にあります。「国語科」「算数科」の学習への自主的な取り組みに低い傾向がありました。

〇平日に、３時間以上テレビゲームをしている児童が５４．２％と全国平均より２４ポイント多く顕著な差がありました。

〇平日に、学校の勉強以外に学習している時間が１時間以下であると回答した児童が、６２．７％と全国平均と比較し１７．２ポイント低く、顕著な差が見られました。平日に全く勉強をしていないと回答した児童も１２．５％いることがわかりました。また、週末に勉強や読書をしている児童は、２９．２％と全国平均と比較し、２０ポイント低く顕著な差が見られました。

３　まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。特に、算数科は前の学年までの計算方法がしっかりと身に付いていないと、次の学年の問題に取り組むことが困難になってきます。学校においては、ドリルタイムに全ての学年の計算の基礎になる、「たし算」「ひき算」「かけ算九九」をすらすらと行えるように取り組んでまいります。

また、平日に家庭で勉強に取り組む時間が全国平均と比較し顕著に少ないことが課題として見えてきました。平日に家庭で多くの時間、テレビゲームをして過ごしている児童が多いようです。

学習習慣について、学校と家庭が連携し改善を図っていくことが一層求められます。引き続きご家庭でのご支援をお願いいたします。